令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会　発表資料

活動団体名：**静岡県富士宮市**
活動地域　：**富士宮市全域**

活動におけるテーマ・キャッチコピー

「富士山と水」を生かした
持続可能なまちづくり

「世界遺産富士山のまち」富士宮市を環境で元気にする

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

取り組んだこと	内　容
協議会の役割 事務体制（環境整備）	専門家による事業性評価や起業、創業のアドバイス、資金調達の仕組みづくりなど、プロジェクトの支援に対する協議会の役割を明確にした。 地域NPOをコーディネーター、大学教授などをアドバイザーとして依頼し、協議会運営や部会の進捗状況の共有を行った。
世話人選出	主体的に関わる人材育成のため、各プロジェクトから世話人を選出。事業構築する体制を作った。
プロジェクト・部会の再構築	作戦プランを議論するため、プロジェクトごとに担い手・もの・お金など、事業化に必要な内容について検討した。事業化が難しくなったプロジェクトを整理しメンバーの再構築を行った。
マンダラ図の見直し	地域課題や地域資源を共有し、地域版マンダラを見直した。
資金調達・創業支援	事業化のポイント等について、専門家を講師に招き、セミナーを開催した。
視察研修	市内で視察研修を行い、意見交換や新たな協働や連携による事業計画の検討ができた。
ネットワークの構築	河川環境に携わる関係者（保全活動や生態系に詳しい方など）と新しい取組計画などについて検討した。
周知	市のホームページへの掲載など地域循環共生圏推進協議会の進捗状況を周知した。 その結果、新規事業などの提案があり、来年度検討していく。

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	**水のまち富士宮　ふれあい大作戦（ビジョン：エコツーリズム「通過型」から「滞在型」観光）**		
	概要	・「富士山に行くならガイドと一緒に」をキャッチフレーズに、市内に多くいるエコツアーのガイドとのネットワークを構築。安心安全に自然と触れ合い、合わせて観光地の素晴らしさを伝えるツアーを企画。 ・北部地域で完結していた観光スタイルに、市街地の資源（歴史名所、宿泊施設、特産物、お土産等）を取り込み、北部地域と中心市街地の交流から生まれる（ヒト・モノ・カネの循環による）にぎわいを市全体に広げる。		
	課題・ボトルネック	観光による環境への配慮 販売手法、富士山と水のブランド化の手法	力を借りたい人物・企業像	旅行業者等、市内企業等 ブランド力を高めるためのコンサル
2	事業名	**再生可能エネルギーを軸とした地域活性化プロジェクト（ビジョン：自立分散型エネルギーシステム）**		
	概要	小水力発電を整備し、地域のエネルギーとして活用する。観光客が多く訪れるキャンプ場を起点にＥ－ＢＩＫＥでの周遊コースに盛り込み、観光スポットとして見せる観光客に対し地域の特産品、農産物などお土産として販売・購入できる場の創設につなげていく。地域の稼ぐ力が増えることで、北部地域の農業人口の減少を抑え、新しい商品開発につなげていく。		
	課題・ボトルネック	高額な資金、事業主体 水利権、防災やレジリエンス強化	力を借りたい人物・企業像	水力発電事業者 発電機製造事業者
3	事業名	**おいしいでつながる地産地消（ビジョン：フードバレー構想　食のまちづくり）**		
	概要	・地産地消と持続可能な循環の仕組み（地域・店舗・お客さまの参画） ・お店からの食品残渣→リサイクルによる肥料化→農家が野菜生産→出来た野菜を店舗で販売・加工→消費者 ・プラ容器を紙容器へ転換し、紙の資源化→リサイクル商品の活用や購入		
	課題・ボトルネック	市民の巻き込みや理解、協力 製造した肥料の販路確保 紙容器製品の取り扱う業者が少なく、プラ容器に比べ現状ではコスト面で割高となる	力を借りたい人物・企業像	農家 廃棄物やバイオマスなどの専門家 紙容器製造業者

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 視察研修を通じて事業者の取組や今後の事業計画を伺い、具体的な支援や連携について考えるきっかけができた。

地域のコンセプトを描く！

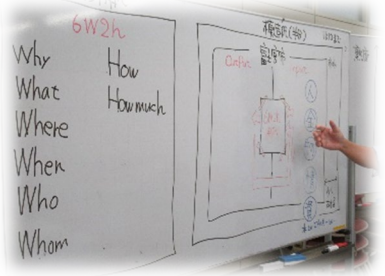
- 視察研修の実施の中で、メンバー同士の意見交換や対話の中で、現状を知ることができ、マンダラ図を見直すきっかけができた。

事業のストーリーを語る！

- プロジェクト毎の事業計画と最終目標を共有することができた。
- 新しい提案や事業計画について検討しやすい環境整備ができた。

地域の目標を立てる！

- 目標を立てることが将来像（未来）を共有する指標となるため、さまざまな視点から検討する必要があることに気づいた。今後も、数値目標や指標について検討したい。



２ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 地域循環共生圏を進めていくためには、幅広い関係者とのネットワークの構築が必要であり、分野横断的に取り組む必要がある。
- 事業化までに何から手を付けて良いか分からない。専門家による事業性評価や起業、創業のアドバイス、資金調達の仕組みづくり等について支援が必要。
- 事業化までに資金や人材面での調整に時間がかかる。

今後の展望

- 地域循環共生圏事業をゼロカーボンシティの取組と合わせて検討していく。
- 事業化を一つでも多く実現するため、専門家による事業性評価や起業、創業のアドバイス、資金調達の仕組みづくりなどプロジェクトの支援を行う。
- 富士宮市地域循環共生圏推進協議会の役割や事務局体制が明確になったことで、今後も新しい提案を募集し、メンバーの呼び込みやマッチングなどを行う。
- 地域で活動している人材を発掘し、ネットワークを構築する。